

クイズの答えは裏面へ

マダニの恐怖とマダニから身を守る方法

皆さんはマダニをご存知でしょうか？ここで話すマダニは、食品や衣類、寝具などに発生するダニとは全く種類が異なります。

近年、西日本を中心にマダニに咬まれることで起こる感染症『重症熱性血小板減少症候群』略してSFTSに関するお話です。このSFTSは、2011年中国の研究者によって発表された新しいウィルスによるダニ媒介感染症のことで、ウィルスを保有しているマダニに咬まれることで感染します。

日本では2013年1月に海外渡航歴のない人が罹患していたことが、初めて報告されました。どうりで10年前位にはマダニがどうのこうのという話はなかったわけです。

ではそのマダニとはどんなものなのでしょう？一言でいえば血を吸う昆虫です。正確には蜘蛛やサソリと同じ8本足の節足動物です。マダニは世界中に800種以上が知られていますが、その内日本には47種が生息しています。固い外皮に覆われ、比較的大型のダニで3mm～8mmです。そして吸血後には10mm～20mm位になります。皮膚にしっかりと口器を突き刺し、セメント質を出して肌に固着し、数日から長いと10日間以上吸血します。吸血中のマダニに気が付き、無理に採ろうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、体液を逆流させてしまう恐れがある為、必ず医療機関で処置してもらいましょう。

何故今、マダニ、マダニと言うかというところ近年このマダニに咬まれたことにより、**日本紅斑熱・ライム病・ボレリア症・ダニ媒介性脳炎・SFTS 他…**などの感染症を多く発症しているからです。SFTS以外は発症しても薬がありますが、SFTSは新型コロナウイルスのように有効な薬もワクチンも今のところありません。発症すると約2割の人がなくなっているのです。そしてSFTSを発症すると人から人へ感染することがわかっています。（血液と体液から感染します。）

ほんの数ミリの小さな身体で、人を死に至らしめるとは… いわゆる「ダニ」のイメージから「死」と関連付けて考えるのは難しいかもしれませんが、実際わずか数ミリの生き物のせいで、長年の闘病生活を余儀なくされたり、死に至ったりしているわけですからそんな目に合わない為にもマダニがどんな生き物なのか又身を守る為にはどうしたらいいかを知っておくべきだと思うのです。

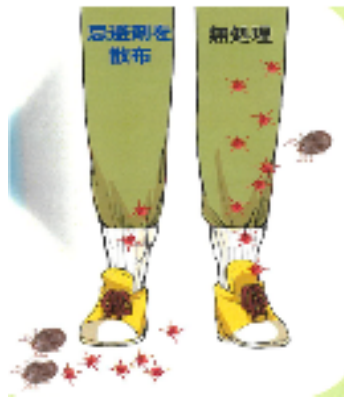
しかし、すべてのマダニがウィルスをもっているわけではありません。判断ができないのでマダニ全体から身を守ることが必要になります。

マダニは3月～11月が活発な活動期ですが3、4カ月で幼ダニ、若ダニ、成ダニと各ステージで1回吸血し、最後2000～3000個の卵を産んで生涯を終えます。主に鹿や猪などの野生動物にくっついていますが、鹿や猪が増えて里へ出てくると同時にマダニも増えていったと思われます。

よく飼い犬や猫が知らぬ間にマダニをくっつけていますが、今となっては山や野原に限らずどこにでもいると思っていただこうが良いかと思えます。マダニは地面の落ち葉の間や、草むらの葉の先端などでじっと待ち伏せしており、動物が近くを通ったら吸血する為に飛び移ります。もともとマダニ自体がウィルスを持っているのではなく、動物が持っているウィルスをマダニが吸いそのマダニが人間を吸血した際にウィルスに移してしまうと考えられています。

防護手段

現在は、ディート、イカリジンの2種類の有効成分が入った忌避剤が市販されていますので（虫よけスプレーなど）下半身にしっかり使用して防護しましょう。（マダニは足元に多い）但し、完全には防げませんので右参照して対策をとってください。もしも、マダニが服などに付いていたときは、ガムテープを使って取り除くのが簡単です。



今回、マダニについて長々とお話させていただきました。まだ、怖いマダニがいることを知っている人のほうが少ないので、この新聞がお役に立てたらいいな

と思います。私は農家ですので、すでに数年マダニと戦っています。皆様も、くれぐれもご注意ください。



吸血して大きくなった状態

体に付着した時の大きさ



皮膚に口器を食い込ませ吸血している状態

ダニに咬まれないためのポイント！

- 肌の露出を少なくする
⇒ 帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等
- 長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する
⇒ シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中
- 足を完全に覆う靴を履く
⇒ サングル等は避ける
- 明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）
 - * 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう
 - * 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう
 - 特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



ダニに咬まれたときの対処法

- 無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。
- マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。

SFTSウィルスを保有したマダニに咬まれたときの症状

- 咬まれてから6日～2週間程で発症します。症状は発熱、消化器症状（食欲低下・吐気・嘔吐・下痢・腹痛）が中心です。時に頭痛、筋肉痛、リンパ節の腫れ、呼吸困難、歯茎からの出血、意識障害などもみられます。咬まれたことに気が付かない、刺し口が見当たらない場合もありますので、症状が見られる場合はすぐに受診しましょう。採血検査によって異常を認めた場合には感染を疑います。確定診断はウィルス学的検査が行われます。